

むすんで ひらいて

第49号
発行日
令和4年3月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
(社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内)
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

◆福井市社協のホームページからバック
ナンバーをご覧くださいませ

安居お買い物バス「あごころ」誕生!!



無料お買い物バス 「あごころ」とは

令和4年3月11日(金)、安居地区で新しく始まる無料お買い物バス「あごころ」の出発式が行われました。

安居地区は福井市の中心部から離れていることでバスの本数も少なく、自分で運転できる自動車がないと、日常生活に不便な状況となっています。平成30年に安居地区社協が行った調査でも、運転免許返納後の買物などに不安が大きいという地域課題がありました。

そこで、安居ふるさと創り委員会と安居地区社協が中心となり、公民館や地区内の特別養護老人ホームである高雄苑の協力を得て、地区独自のお買い物バスを運行する運びとなりました。高雄苑で昼間使われていない送迎バスを活用し、地区内に住む65歳以上の方を対象に、週1回、高雄苑からMEGADON・キホーテUNY福井店まで往復便を運行します。

「あごころ」というネーミングは、地区内で公募され、130通もの応募の中から地元の中学生によるものに決定し、「安居」と「真心」をかけあわせ地域の人に長く親しんでもらえるようにという思いで名付けられました。

地域の方々の思い

バスの運行開始にあたり、住民からは「長年の課題の解決につながり、うれしい」、「安居地区がよくなる取り組みで、ずっと喜ばしい」といった、喜びと期待の声が多く寄せられています。また、安居地区社協も、「この取り組みを通じて、地区社協を知ってもらおうきっかけになしてほしい。これからも、地区で協力しながら、地域福祉に目を向けたまちづくりに取り組みしていきたい」と、これからの意気込みを語っていました。

運転免許返納制度の広まりもあり、こうした買物支援の取り組みが様々な形で広がっています。日々の生活に直結する買物への支援は、いつまでも安心して地域で暮らし続けるために大切な社会資源です。今後も地区社協連絡協議会では、こうした住民同士の支え合いの取り組みについて、共に考えていきます。

真心こめて
走ります



お買い物サポート・ 便利帳を作成

～地域の声を聴きながら～



円山地区社協では、地区内の買物について、何らかの支援を行っているお店や、バス・乗合タクシーなど移動に関する情報をまとめた「お買い物サポート・便利帳」を作成しました。

円山地区には、近所に生鮮食品等を取り扱うお店がない地域があり、免許を返納したり、足が悪くなって買物の荷物が重いなど、これからの買物物に不安を持っているお年寄りがいます。これらの現状把握のために「買い物環境アンケート」を実施しました。

このアンケートは、福祉委員が令和3年8月に敬老事業の記念品配布にあわせて、地区内の75歳以上の方（ひとり暮らし・高齢者のみの世帯を民生児童委員が抽出）に配布と回収を行いました。アンケートの結果から、日々の生活に直結する買物に関する困りごとを感じるお年寄りが多くいる現状が分かってきました。

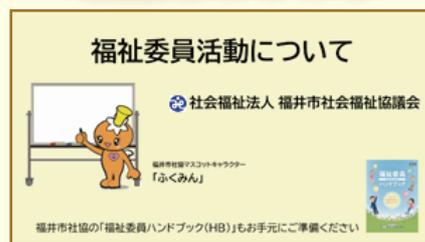
また、この取り組みによってアンケートによる情報収集にとどまらず、福祉委員がお年寄りと顔をあわせる機会となり、言葉を交わすことで暮らしぶりをより深く知るきっかけにもなりました。

その後、地区内の店舗によるお買物支援、宅配等の実施状況についての聞き取り調査の結果と、バ

スや乗り合いタクシーなど移動に関する情報をあわせて冊子にまとめました。この冊子は、今後の福祉委員による見守り活動などを通して、地区のお年寄りに配布していく予定です。

作成に取り組んだ円山地区社協や福祉委員の方は、「今回作成した

令和4年4月1日に 福祉委員が 改選となります



令和4年4月1日付で、福祉委員が一斉改選となります。福祉委員は自治会を単位に市内で約1,600名を委嘱し、お住まいの自治会でひとり暮らし高齢者をはじめとする様々な困りごとを抱えた方へのあいさつや声かけなど、日常的な見守りをお願いしています。また、研修会への参加や各地区社協が取り組む活動へのご協力もいただいています。

冊子を配るだけでなく、冊子にまとめた情報の活かし方や、サービスの使い方も伝えていきたい。お年寄りとのつながりや、訪問した際のコミュニケーションのきっかけとなるようなものになりたい」と、今後の活用について話しています。

今回の任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日までの2年間で、各地区社協会長と福井市社協会長の連名での委嘱となります。

令和4年度は、地区社協連絡協議会と市社協の共催で福祉委員スキルアップ研修会の開催を予定している他、新しい取り組みとして福祉委員活動を紹介する動画を作成します。記載のQRコードから動画の公開ページ（市社協のYouTubeチャンネル）にアクセスできますので、ぜひご覧ください。

近隣住民の「見守り」や「支え合い」による普段からの地域福祉活動を推進していくため、福祉委員の活動へのご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。



見守り活動に関する研修会



福井県立大学
看護福祉学部
教授 奥西 栄介氏

講師 福井県立大学看護福祉学部

教授 奥西 栄介氏

開催日 令和3年12月6日(月)

参加者 79名



地区社協役員の方々を対象とした見守り活動に関する研修会を開催し、コロナ禍によって大きく様変わりした地域福祉活動のあり方について考えました。



講師からは、福井市社協が住民と共に策定した「第4次地域福祉活動計画」の内容に触れながら、一方的な支援する側、される側という関係だけでなく、助け上手、助け

られ上手につながる「受援力」という考え方など、今後の地域福祉活動につながる考え方についての話がありました。その後、参加者で「担い手不足・高齢化に関すること」や「福祉への意識・関心に関すること」などのテーマに分かれてグループワークで話し合いを行いました。

参加者からは、「特別な意識ではなく、普段のお付き合いの延長上にある支え合い、助け合いという事が当たり前に出来る地域にしていきたい」「地域での協力を得られるよう、地区社協の取り組みを知ってもらえるよう努めたい」などの感想が聞かれ、人と人とのつながりの大切さを再確認できました。

コロナ禍のため、様々な地区が顔を合わせて意見交換をする久しぶりの機会でもあり、改めて日頃の、あるいは今後の地域福祉活動について考えるきっかけとなる研修会でした。



連絡会を オンラインで 開催しました



令和4年2月から3月にかけて、福井市地区社協連絡協議会連絡会を3回に分けZoomを活用したオンラインで開催しました。

当初は参集で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、急遽オンラインでの開催となりました。オンラインという形ではありましたが、Zoomを活用することで、直接情報共有や意見交換をすることができる場となりました。

今回は、市社協から令和4年度から取り組まれる第4次地域福祉活動計画や、来年度の福祉委員の改選についての説明などが主な内容でした。

コロナ禍によって思うような活動がままならない状況が続いていますが、オンライン会議の導入など、新たな取り組みにもチャレンジしつつ、今後も形態を工夫して地区社協連協としての活動を継続していきます。



殿下地区



殿下地区は、福井市の西部に位置しています。人口は390余人、戸数は160余戸の静かな山村です。多くの地域でも見られるように、近年は人口の減少が課題となっています。そんな中でも、殿下地区の住民は、それぞれに生

コロナ禍でも

健闘しています

き生きとまちおこしにつながる活動に取り組んでおり、マスメディアにも取り上げられています。

さて、殿下地区社協の取り組みですが、令和3年8月には殿下小学校の子ども達と高齢者の交流会が行われ、様々なゲームを共に楽しみました。この交流会は毎年夏休みに合わせて開催しており、コロナ下でも内容を工夫しながら開催しています。

11月には地区の文化祭の中で福祉まつりが開催されました。ここでは地区社協活動の写真展示や、福祉に関するクイズなどの催しを行い、若い人からお年寄りまで来場した多くの方が楽しんでいました。

どちらのイベントも、参加した方から久しぶりに地域のみんなで集まる機会を喜ぶ声が、たくさん聞かれました。まだまだ今までもどおりの活動継続が難しい状況ですが、その中でも人と人が交流する機会を持てるよう、みんなで力を合わせながら健闘しています。

東郷地区

みんなでつながり、支えあう
心温かな福祉のまちづくり



東郷地区は、福井市の南東部に位置し自然と歴史に恵まれた地域です。特に東郷米や造り酒屋が有名です。また、地区の中心部を流れる川には、鯉が泳いで季節の花と共に風情豊かな町並みになっています。

一方、地区の周辺部では少子高齢化の進展が課題となっています。地区社協としての活動は、この2年間、新型コロナウイルス感染症予防のために活動が制限されてきました

が、民生委員や福祉委員を中心に、自治会型デイホームの継続実施やひとり暮らし高齢者への食事サービスを通じながら、コロナ下での見守り活動を実施しています。

こうした中、主に男性の交流を目的とした「シルバーメンズ料理教室」は、2年間一度も実施できなかったため、令和3年度はなんとか開催しようとして、「料理体験はするが、会食せず」に全て持ち帰りの条件をつけて、12月に「ふるさとの伝承料理づくり」、そして2月は「そば打ち体験教室」を実施しました。久しぶりの教室開催で、皆さん積極的に、楽しく和気あいあいと料理されていたのが印象的でした。

今後もこうした男性も楽しめる活動も増やしながら、地区のみんなさんが安全で安心して楽しく暮らせるまちづくりに向けて、地区スローガンの『みんなでつながり、支えあう心温かな福祉のまちづくり』を目指していきます。

